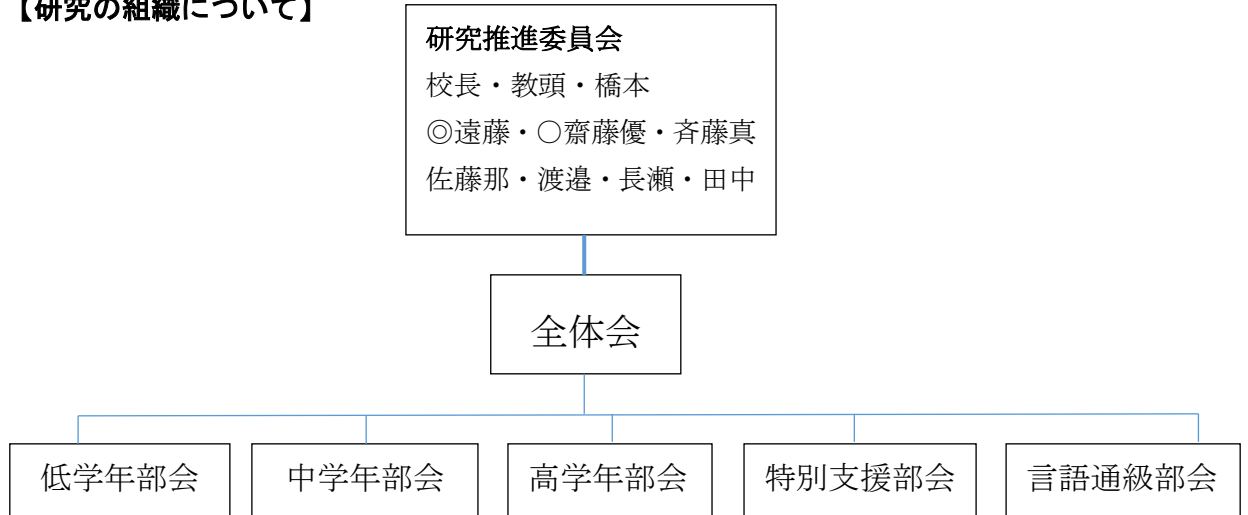


学 校 名	山形市立第六小学校 山形市鉄砲町二丁目9-55 TEL 622-0656 FAX 633-9341	校 長 江口 俊和
		研究主任 遠藤 明日香
研 究 主 題	<p>仲間とともに、自ら学びに向かう子どもの育成（1年次）</p> <p>～子ども理解をベースにした授業づくり～</p>	
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、「笑顔あふれる子ども」の育成を学校教育目標に掲げ、次のような子どもの姿をめざして教育活動を行っている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>(1) 学習大好き かしこい子ども「かしこく」（確かな学力）</p> <p>(2) みんなを大事に 豊かな子ども「ゆたかに」（豊かな心）</p> <p>(3) 明るく健やか 元気な子ども「すこやかに」（健やかな体）</p> </div> <p><b>【社会的背景から】</b></p> <p>今、子ども達を取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。近年、コロナウィルス感染症によって世界中が経済、医療、教育など様々な場面で問題を抱えることとなり、従来のやり方を見直し、新しい方法を模索することとなった。子ども達が成人して社会で活躍する頃には社会構造や雇用環境が大きく変化し、子ども達が就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになると指摘されている。こうした時代の変化の中で、特に「学びに向かう力」は、自分を見失うことなく未来を切り開いていくために、また、変化が激しく先行き不透明な21世紀の社会を生き抜く上で必要となるであろう。</p> <p>新学習指導要領では、「主体的」「対話的」「深い学び」「探究的な学習」などを大切にして学習していくことが求められるようになった。特定の教科等にとどまらず学校教育全体を通じて、「どのように学ぶのか」という学びの質や深まりを重視していくことが必要になってきている。</p> <p>これらのことから、物事を自分事としてとらえ、考え、社会や他者と関わりながら自己実現しようとする子どもの姿を目指し、研究主題を設定した。</p> <p><b>【これまでの取り組み】</b></p> <p>昨年度までは、研究主題を「自ら学びに向かう子どもの育成」として取り組んできた。その中で「自ら学びに向かう」ということを、「自己肯定感をもち、自分の願いを実現するために主体的に資質や能力を身につけようとする姿」ととらえ、研究を進めてきた。</p> <p>取り組む中で育ってきた点や得られた成果も多いが、昨年度の取り組みの反省や社会的な背景に照らし合わせて考えると「学習課題を自分事として捉えられない」「新たな課題を見つけられない」「共感しながら聞いたり、自分の考えを他教科や実生活などに結び付けて考えたりする力は足りない」という課題が見えてきた。また、それらのことは、私たち授業者の反省でもあった。</p> <p>そこで、改めて本校の子ども達にとって必要な資質能力について話し合ったところ、学校経営構想の中で育成を目指す資質・能力でもある「主体性と協働性」が特に培っていきたい力であることが共通理解された。そこで、今年度からは研究テーマに「仲間とともに」という言葉を加え、「仲間とともに＝協働性」「自ら＝主体性」という二本柱で、学びに向かう子どもの育成に取り組んでいきたいと考えた。</p>	

めざす子どもの姿	<p>子ども主体の授業を創るためには、子どもの思いや願いに耳を傾け、一人一人が何を求めているのかを考えることが必要である。「どうしてその子がこう考えた（行動した）のかな。」と子どもの言動の奥にあるものについて考え、教師が子どもを理解し続けようとしながら授業に取り組んでいけるよう、今年度は「子ども理解をベースにした授業づくり」を研究の核として進めていく。</p> <p>以上のことから、研究主題を「仲間とともに、自ら学びに向かう子どもの育成」、サブテーマを「子ども理解をベースにした授業づくり」と設定し、学校教育目標を具現化していきたいと考えた。</p>
研究の内容と方法	<p><b>【研究の内容について】</b></p> <p><b>(1) 子ども理解をベースにした授業づくり《重点》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性・協働性を身に付けるために、昨年度の反省いかして授業を創る。教師それぞれの持ち味を生かし、教科にとらわれず「子ども主体の授業」をめざして教材研究し、授業を創っていく。「子ども主体」の意味を問い直しながら授業力を高めていく。</li> <li>・子どもの姿（言動、行動）で語り合う。子どもの具体的な姿を根拠として話し合うことで、何が見え、どのように解釈し、価値づけたのかを語り合っていく。それらを通し、子どもの育ちを知ると共に、教師自身の子どもを見る目を鍛えることは、教師の授業力が向上することにつながる。</li> <li>・長期的な見通しを持って授業に望むためのカリキュラム・マネジメント表の作成。子どもの実態とめざす子ども像に応じて教育計画を立てる。</li> </ul> <p><b>(2) 研究の日常化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「全ての教職員は、全ての子どもの担任である」という意識をもつ。</li> <li>・日常的な実践を見合ったり全校の子ども達の様子をみとったりできるようにするために、授業を通覧したり授業を開いたりする機会を意図的に設ける。</li> <li>・研究推進委員が研究便りを作成し、子どもを育てるために必要な情報を共有する。</li> </ul> <p><b>【研究の方法について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究会の実施…全員が研究授業を行い、研究主題の実現に迫る。</li> <li>・校内研修会の実施</li> </ul>

**【研究の組織について】**



- ・研究推進委員会
- 研究の原案づくり、日程調整、研究授業や全体会の運営、研究の日常化の推進 等

**【授業研究会の進め方について】**

- ・大研は、上学年、下学年、特支・通級から1授業提案。指導者を招聘し全体で事後研究会を行う。
- ・教科・学年部単位で事前・事後研究会を行う。
- ・授業研究会の記録については学年で話し合い分担して作成し、研究だよりとして全員に配付する。
- ・研究概要、指導案、研究だより等は各自その都度ファイリングし、今年度の研究紀要としていく。

今年度の計画

4月	今年度の研究構想・全体計画	
5月	授業研計画・指導案提案検討	研究授業（小研）
6月		
7月	研究授業（大研）・校内研修	
8月		
9月		
10月		
11月	研究授業（大研）	↓
12月	研究授業(大研)・校内研修	
1月		
2月	今年度のまとめと振り返り	
3月	次年度の研究構想	